

が、近隣地域内での地点差は無視できる程度であった。また、その太陽高度による変化も認められたが、季節変化に比べれば重要ではない。

しかし、そもそも雲量には雲の厚さや重層についての情報が欠けているうえ、1時間平均ではなく瞬間値しか記録されないため、これから推算する日射量と実測日射量の相関係数は0.8台にとどまる。ここでは雲量と日射量の関係を1次式で近似した。下層雲の雲量が10の場合に特別な補正を加えるなどの工夫をすれば結果はもっと改善されるであろうが、大幅な変化は期待できない。

ともかく、雲量と日射量の平均的な関係とその相関の程度、およびそれらが地点間でどの程度異なるかがわか

ったので、用途に応じて、日射量の大きな推算に雲形・雲量の観測値を利用することは可能だと言ってよからう。

文 献

- 菊地原英和, 篠木誓一, 吉田作松, 1985: 日別全天日射量階級別日数の全国マップ作成(Ⅱ) 日別全天日射量階級別日数の推定と全国マップ作成, 天気, 32, 301-309.
 近藤純正, 三浦 章, 1983: 地表面日射量の実験式と日射計をチェックする簡便な方法, 天気, 30, 469-475.
 林 正康, 1982: 日射量と雲量, 公害, 12, 285-289.

第5回エアロゾル科学・技術研究討論会講演および参加募集のお知らせ

主 催 エアロゾル研究協議会
共 催 静電気学会, 日本気象学会, 日本空気清浄協会, 日本産業衛生学会, 日本大気電気学会, 日本粉体工業技術協会, 粉体工学会・エアロゾル部会
協 賛 応用物理学会, 化学工業協会, 空気調和・衛生工学会, 国際エアロゾル医学会日本支部, 大気汚染研究協会, 日刊工業新聞社, 日本保健物理学会, 日本防菌防黴学会

第5回研究討論会を下記により開催することになりました。今回も、これまでどおり、いろいろな分野のエアロゾル研究にかかわりをもつ研究者・技術者の研究交流と情報交換の場になりたいと考えておりますので、多数のご発表とご参加をお願い致します。

なお、6月には研究討論会のプログラムおよび参加募集のご案内を改めてさせていただきます。

記

日 時 昭和62年8月19日(水), 20日(木)(夜 懇親会), 21日(金)
会 場 筑波研究学園都市研究交流センター(科学技術庁) TEL 0298-51-1331
 茨城県新治郡桜村竹園2-20-3
 (エアロゾル関連機器・カタログの展示会も併設します)

講演募集分野 エアロゾルに関する全分野を含みますが、一応次の分野に従ってお申し込み下さい。
 1) 生成と性状(焼燃を含む) 2) 測定 3) 動力学と沈着現象 4) エアフィルターと集じ

ん 5) 大気エアロゾル 6) 生体影響 7) 室内エアロゾル 8) クリーンルーム 9) エアロゾルの利用(医用, 薬用, 工業用材料) 10) その他

講演種別 1) 未発表の研究 2) 既成研究のまとめ 3) 最近既発表の研究

講演要旨原稿 日本語または英語。(日本語の場合はアブストラクト, 図, 表, 文献名は英語とします)。オフセット印刷。

講演発表 OHP を主とします。スライドを使用される場合は、挿入および操作等は各自でお願いします。

講演時間 申込件数に応じて調整させていただきます(15分前後)。

講演申込締切 昭和62年5月9日必着

講演要旨原稿締切 昭和62年7月15日必着

講演申込要領 申込書を下記に請求し、所定の事項を記入して下記へお送り下さい。

〒606 京都市左京区田中関田町2-7

思文閣会館33号

エアロゾル研究協議会 (TEL 075-751-0195)

討論会参加費 個人会員および賛助会員(ただし3名以内) 5,000円, 学生3,000円, 共催および協賛会員7,000円, その他15,000円

(ただし、申込締切後は1割増)

懇親会参加費 4,000円

参加申込締切 昭和62年8月8日